

事業完了報告書（実行団体）

事業名:	社会的養護出身者に対する自立支援事業
資金分配団体名:	公益社団法人ユニバーサル志縁センター
実行団体名:	特定非営利活動法人スマイルリング
実施時期:	2021年 6月～2022年 2月
事業対象地域:	全国
事業対象者:	児童養護施設の子供や退園後の青年及び少年院出院後の青年達

Version 3.2

日付: 2022年3月31日

I. 事業概要

事業実施概要	新型コロナウイルス感染症により、就労先、アルバイト先、仕事の減少等による収入の減少、イベント等も大幅に減少するなどの理由で人と接する機会が極端に減り、児童養護施設の子ども達や退園後の青年、少年院を出院した青年達のもつ、就労、生活の困難、孤独感など、悩み、不安が深刻化した。当法人は、そうした日常で様々な困難を抱えた青年達に、頼ることのできる大人との繋がりや、シェアハウスによる安全な居住場所の確保、就労支援、相談支援、青年の居場所作り、社会の中で必要な知識等の提供などを行った。青年一人一人へと寄り添いながら、幸福な生活基盤を築くための支援と、可能な限りで児童養護施設や少年院でのイベントも開催し、子供達との繋がりや信頼関係を築き、社会に出てから頼って貰えることを目的に触れ合った。
--------	---

II. 課題・事業設計の振り返り

課題設定、事業設計に関する振り返り	シェアハウスのニーズは新型コロナの影響の長期化、2度の緊急事態宣言に伴い、想定以上となった。全国からの相談があり、当初予定数以上の受け入れを実現した為、食費や光熱費などの事業費が200%を超えてしまい、資金計画の変更を余儀なくされた。またスタッフも不足で負担が多すぎ、今後継続していくためにも改善が必要。就業支援は、代表の堀田が6月に「合同会社スマイルリング」を立ち上げ、青年達を雇用し、共に働きながら就労後のフォローアップを行った結果、全員が就業継続出来ている状態である。他の飲食業などコロナの影響を受けた青年も居たり、事情により短期間の仕事、アルバイトを必要としている青年への支援は、冬期間仕事の少ない北海道では難航した。車の運転免許取得も北海道での就業には必要不可欠なので、どんな支援が可能なのかは今後の課題。全国からの電話やLINE等の相談件数も増え、様々な悩みにも可能な限り寄り添ってきた。今後の課題はスタッフ不足を解消することであり、青年達が必要としている時に、すぐに話を聴いてあげられる体制を更に作っていききたい。青年達の居場所作りとしては、一昨年からスタートした「ミニイカシ畑」での多団体や地元の人々で行っている畑作業に青年達が喜んで参加し、一定以上の成果を上げられた。社会生活で役立つ知識取得講座は、コロナの影響で学園等では開催することが出来ず、やむなくシェアハウス内でのゴミの分別や掃除・洗濯・料理などのミニ講座を毎月開催する程度に終わってしまった。ポクシングセッション、職業体験等の学園や少年院でのイベントもほとんど開催することが出来なかったが、各学園等などとの連携をさらに深め、イベント開催の為の方法を模索し、子供達への繋がりを作る必要がある。
-------------------	--

III. 今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）※複数設定の場合はコピーし複数記載ください。

①受益者	②課題	③今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）（事業計画から転記）	④指標（事業計画から転記）	⑤目標値・目標状態（事業計画から転記）	⑥結果(定量化できるものは%も記載、最大100%)	⑦考察
その他	就業困難	(01) 若者達が就労し、その後就労が継続する。	就労活動や就労状況	受け入れ企業の開拓数 5社	7社、100%	現在11名の青年（北海道8名、道外3名）が就労し継続中。 (内スマイルリングホーム利用者6名)
その他	居場所の不足	(02) 若者達がいつでも帰ってこられる居場所がある。	入居からの経過期間	スマイルホームの利用者数 10人	入居者数8人、食事などのホーム利用者数22人、100%	シェアハウス「スマイルリングホーム」を運営
その他	事業実施上の困難	(03) 若者達の生活能力（衣食住の安定、健康管理など）が向上する。	日常生活状況、場合によっては金銭管理の状況等	各種講座等の回数 6回	14回、100%	掃除、洗濯、料理、ゴミの分別、金銭管理等のミニ講座を実施
その他	相談先の不足	(04) 児童養護施設及び少年院退所後の若者達の悩み事を相談できる。		相談窓口利用者数 45人	42人、93%	電話やダイレクトメール、LINEで受けた相談回数は600件を超えた。
その他	その他	(04) 児童養護施設及び少年院退所後の若者達の悩み事を相談できる。		アウトリーチ回数 15回	14回、93%	一人の青年の相談に親身に寄り添うことにより、彼等からは本音の声を聴けるようになっていき、良いことも悪いことも話してくれるようになった。そして、自分と繋がっている仲間の青年のことも相談して、繋いでくれるようになっていった。
その他	その他	釧路まりも学園、十勝学園、帯広少年院での花火やクリスマス会などの他、映画上映会など		イベント数 5回	10回、100%	コロナ渦の中での行事開催は、各施設の判断で違うため、どうしたら安心して子供や青年達が喜んでくれることを実行できるのかという施設側との関係構築。

その他	事業実施上の困難	着付け、ヘアメイク、写真を撮ってくれる人、振袖の用意や保管場所など。	各支援事業の参加人数	振袖支援人数 5人	4人、80%	青年がとても喜んでくれる支援なので、全国各地で希望者がいればかなえてあげたい。その為には、課題にあるような支援を支えてくれる人の確保が必要である。
その他	事業実施上の困難	スタッフの時間不足による調整。		支援会議開催数 9回	9回、100%	青年一人一人が抱える課題や悩み、問題に、いかにスタッフが団結して寄り添っていくか。一人で悩んでいるスタッフがいないか、話し合うことはとても重要と感じた。
その他		新聞、ラジオ出演、NHKなど		マスコミ掲載数 【目標5回】	20回、100%	

IV. アウトカム（事業実施以降に目標とする状況）*

事業実施以降に目標とする状況（事業計画から転記）	児童養護施設の子供達や退園後の若者達、少年院を出院した若者達が、自己肯定感を高めながら、安心し、自立した社会生活に進んでいけるということが目標。その為の家事能力や社会人としてのマナーを身に付け、就労し、その就労が継続出来ていること。いつでも帰って来られる居場所で、心と体の安定や自立への準備が出来ること。悩んだ時にはいつでも相談できる繋がりや関係性を持つる事を目標とする。
考察等	事業年度中、大阪、新潟、岡山、埼玉などの道外からも、児童養護施設や少年院を出院した後、生活が困窮してスマイルリングを頼ってくれる青年達がシェアハウス、スマイルリングホームで生活を送った。その青年達を、代表の堀田が6月に立ち上げた土木工事会社への就労へと繋げ、堀田と共に働きながらの見守りや支えによって、現在も全員の就労が継続している。ホームでは暖かく情緒的な関わりを持ち、お腹一杯にご飯を食べさせ、安心して眠れるような環境に配慮しながら、一人一人の話に耳を傾けてきた。その結果として、良いことも悪いことも、安心していろんな話や相談を、自然な形でしてくれるようになっていった。そのことにより、少年院出身の青年の再犯を何度も食い止められた。ホームを出た後の青年達も、スマイルリングホームの事を「実家」と呼んで、顔を出してくれること。年上の者が下の者の面倒をよく見てくれるなど、青年同士の助け合いの連帯や、スタッフのように手伝ってくれる青年も現れるなど、「安心感」がもたらす効果をととても感じる。

V. 活動

活動	進捗	概要
居住支援事業（当法人借上げのスマイルリングホームでの居住、食事提供、就労相談、洋室への改修）	計画通り	最大6名まで入居できるスマイルリングホームには想定以上のニーズがあった。入居者以外にも、毎週食事に来る青年達が有った。その中で自然な形で、就労も含め様々な相談に乗ることが出来、安心して居られる場所への青年達からの期待を感じた。1室、古い和室を洋室へと回収することが出来た。
知識習得等支援事業（ファイナンシャルプランナー等による講座実施、部屋の掃除方法や日常生活の仕方等の講座実施）	ほぼ計画通り	十勝学園など、在園中の高校生を対象にしたファイナンシャルプランナーの講座などはコロナの影響があり、学園で開催することが出来なかった。しかし、スマイルリングホームに入居、集ってくる青年達に対しては、食事会に合わせて日常生活に必要なミニ講座を繰り返し開催した結果、生活能力の改善が見られた。
社会的養護出身者の生きづらさを考えるシンポジウムの開催	ほぼ計画通り	スマイルリング釧路チームが誕生した事を機に、釧路まりも学園の職員と開催することが出来た。
イベント支援事業「児童養護施設（2施設）」での打ち上げ花火会の実施、クリスマス会の実施	ほぼ計画通り	新型コロナの影響で直接会うことが難しい子ども・若者との関係性構築のために実施したものであるが、施設それぞれの判断があり、地元の十勝学園でのイベントは難しかったが、釧路まりも学園での花火大会、イベントの付き添い、クリスマス両施設へのプレゼント配布、少年院での映画上映会などを実施した。
若者達へ夢や希望、思い出作りを支援（振袖支援の実施 ボクシングセッション・講話「坂本博之、川崎竜希、畠山昌人」の実施）	遅延あり	振袖支援は、帯広・札幌・鹿児島・釧路で実施、少年院出身の青年にはサプライズウエディング（幸福駅でのウエディングセレモニー）を実施した。どちらも、親や大人に頼ることなく成人式に振袖を着たり、結婚式を挙げる事を諦めざるを得ない、寂しい思いをしている青年達の、心の中にある本当は叶えなかった夢や希望を実現する為のものであり、青年達の笑顔が輝く、大切な事業である。また、児童養護施設及び少年院でのボクシングセッションも、毎回子供や青年達が楽しみにしているイベントであり、青年達との関係構築に大きな力となるのだが、コロナで中止となり、とても残念だった。
イベント支援事業（支援者及び社会的養護出身者による畑体験交流会）	計画通り	十勝幕別町にある、他団体と共同運営している「ミナイカシ畑」でのジャガイモの種まき、ジャガイモやかぼちゃ、大豆の収穫祭。収穫した大豆を使用しての味噌作り、醤油作りなどのイベントを実施し、毎回青年達が楽しみながら参加出来た。
相談支援事業（地元児童養護施設出身者の食事を通じた交流会、全国からの相談サポートの実施）	計画通り	月に一度程度の食事を通じた交流会をスマイルリングホームにて実施。コロナの影響で開催出来ない月もあったが、普段中々会えない地元の児童養護施設出身の青年達なども喜んで多数参加し、近況を報告したり、情報を交換したりなど、貴重な時間となった。

普及活動事業（道内外での講演会、少年院での講演会の実施、道内外での少年院ドキュメンタリー映画「記憶」の上映会の実施）	計画通り	美唄市、札幌市での講演会と、帯広少年院閉庁に伴うイベントでのトークライブ。新聞各社、ラジオ番組への出演、NHKなどからの取材等、何度もマスコミに取り上げて貰い、多くの人にスマイルリングの活動を知って貰うことが出来た。ドキュメンタリー映画の上映も、帯広少年院、北海少年院、帯広保護司会、釧路市で実施し、少年院の青年達の実情などを知って貰うきっかけとなった。
職業相談支援事業（支援企業による職業体験、見学会や、就労のサポート及びアフターフォローの実施）	計画通り	就労相談は青年達が困ったその時に、常に直ぐ対応した甲斐があり、就業継続の結果が出た。また、青年達を雇用する支援企業にお願いして、職業体験や見学をさせてもらうなど、青年達の就労への不安を軽減させ、支援企業側に対しても、根気よく青年達へのフォローをお願いした。

VI. 想定外のアウトカム、活動、波及効果など

想定外のアウトカム、活動、波及効果など	特になし
---------------------	------

VII. 事業終了時の課題を取り巻く環境や対象者の変化と次の活動

課題を取り巻く変化	コロナの長期化に伴い、青年達の孤独感や不安感は増している。その中でいかに人間的に暖かな関係性を築いていけるか、出会ったりつながる事の出来た青年達が、どうしたら現実的に踏ん張れるのかを考えたときに、地道ではあるが、スマイルリングホームを中心とした、安心して青年達が食事を取り、眠ることが出来、話すことが出来る場所とが増えていく事が、益々必要と考えている。事業中、入居者には、おなか一杯に食べ、清潔な寝具で眠り、いつでも話が聴けるような体制を取ったところ、薬物やアルコール、ギャンブルなどの問題行動が自然に改善され、今まで続いたことが無い就労も、誰一人欠けることなく継続している。そして、そのように関わってきた青年達からの「口コミ」で、新たな青年達からの相談が増えている。これからも青年達一人一人の課題に寄り添う支援を行っていきたい。
-----------	---

VIII. 他団体との連携

連携先	実施内容・結果
TASUKI 有限責任事業組合	居場所作り支援事業の「ミナイカシ」で、大学生や地元農家などとの交流や、「農業×自分発掘」などのプログラムを企画・運営や、地域おこし企業人交流プログラムなど、スマイルリングの青年達も自然な形で仲間に入れて貰っている。
TFS（とち友フレンドシップ）	北海道、十勝に訪れる外国人材（技能実習、留学、就労など）を支える団体であり、「ミナイカシ」参加団体。スマイルリングの青年達と共に、主にベトナム人の青年達が共に農作業で汗を流す。スマイルリングの青年達は、貧しい国から出稼ぎにきた、素朴で働き者の外国の青年達との交流の中で、自分自身を見つめることが出来るようになってきた。
合同会社151枝	帯広市の就労継続支援B型事業所であり、児童養護施設出身のスマイルリングの青年も就労している。発達障害などの青年も多い為、情報を共有しながら、青年達を共に見守っている。
自立相談支援センターふらっと	帯広市からの委託を受けて、生活全般のサポート、相談支援をしている団体であり、スマイルリングの青年の抱える金銭的な相談事などに親身になって乗って貰った。お金の使い方や、借金などで行き詰まった青年への的確なアドバイスは、私達スマイルリングのスタッフが行うよりも、具体的で、青年達には頭も心も整理がつくようだった。

IX. インプット ※事業完了月の月次収支管理簿の金額を入力ください。（精算金額と一致させる必要はありません）

		計画額	実績額	執行率
事業費	直接事業費	2,895,092	2,895,092	100.0%
	管理的経費			#DIV/0!
合計		2,895,092	2,895,092	100.0%
補足説明				

X. 広報実績

広報内容	内容
1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）	5月 北海道新聞社「サプライズセレモニー」十勝毎日新聞社「サプライズセレモニー」「ミナイカシ芋植えイベント」 7月 十勝毎日新聞社「合同会社スマイルリング設立」、「青少年の更生へ居場所を」北海道新聞社「少年院出院者の家族に」 8月 北海道新聞社釧路版「少年院出院者の家族に」 9月 北海道新聞社「ミナイカシ」十勝毎日新聞社「ミナイカシ」「帯広少年院から感謝状」北海道新聞社釧路版「映画上映会」 10月 プレス空知「美唄市立東小学校開校50周年記念 堀田豊稔講演会」11月 十勝毎日新聞社「社会の支えを財産に」「帯広少年院閉庁に伴うインタビュー」 NHKおはよう日本「帯広少年院閉庁式での密着取材」 日本農業新聞「ミナイカシ」 FMラジオワークライフシナジー出演 12月NHK総合「北海道発ドキュメント」 1月北方ジャーナル「さらば帯広少年院」
2.広報制作物等 当該事業費を使って製作したもの	釧路市映画上映会チラシ
3.広報制作物、購入物等でシンボルマークの活用方法（事例）	
4.報告書等	活動報告書

XI. ガバナンス・コンプライアンス実績

①規程類※の整備実績	状況	内容
1.事業期間に整備が求められている規程類の整備は完了しましたか。	整備中	基本的な整備は行わなかったが、経理会計の体制を整える事を優先した為。
2.上記設問1で「整備中」の場合は、事業開始時と比較して、整備状況がどのように改善されたかを記載してください。		定款をホームページ上で公開した。
3.整備が完了した規程類を自団体のwebサイト上で広く一般公開していますか。	全て公開した	
4.変更があった規程類に関して資金分配団体に報告しましたか。	変更はなかった	
②ガバナンス・コンプライアンス体制	状況	内容
1.社員総会、評議員会、理事会は、規程類の定める通りに開催されていますか。	いいえ	コロナで開催することが出来なかったが、オンライン環境を整備し、早めの開催を目指す。
2.利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。	はい	
3.関連する規程類や資金提供契約の定めどおり情報公開を行っていますか。	はい	
4.コンプライアンス委員会またはコンプライアンス責任者を設置していましたか。	いいえ	今の体制では設置が難しいと判断したため。
5.ガバナンス・コンプライアンスの整備や強化施策を検討・実施しましたか。	はい	
6.報告年度の会計監査はどのように実施しましたか。 (実施予定の場合含む) (複数選択可)	<input type="checkbox"/> 外部監査 <input type="checkbox"/> 内部監査	監事が監査を実実施
7.本事業に対して、国や地方公共団体からの補助金・助成金等を申請、または受領していますか。	いいえ	
8.内部通報制度は整備されていますか。	はい	JANPIA資金分配団体等役職員専用ヘルプラインの利用している。